



東村山稲門会ニュース 第42号

平成12年9月2日発行
発行責任者：大西 幸夫
事務局：小亀 輝雄
042-394-6951

会からのお知らせ

○ 平成12年10月役員会

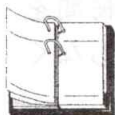
日時：10月7日（土） 14:00～14:30 発送準備（有志による）
14:30～16:00 役員会

場所：スポーツセンター2F

なお、一般会員の方も時間の都合のつく方は気楽にご参加下さい

○ 役員候補の募集

来期は役員の交代期に当たります、会のマンネリ化を防ぐ為にも多少の交代を考えています、役員を引き受けて頂ける方、10月末日までに事務局宛ご連絡下さい。



今月の予定

10日 12時30分～ 麻雀同好会

24日 14時～ 郷土史の会

早稲田大学125周年事業募金について

毎月お知らせ致して居りますが、早稲田大学では建学の理念「学問独立」「学問の活用」「模範国民の造就」を実現するため創立125周年の記念事業として、インテリジェント教育研究棟2棟の建設、新学生会館の建設、大隈講堂の多機能型文化ホールへの再生を実施するための資金調達の募金活動を展開しています。

会としても会員の皆様に来期から7年間会費3500円に1500円を上乗せしこの分を寄付することをお願いして居ります、来期の会費徴収は11月です、よろしくお願い申し上げます。

同好会だより

ゴルフ同好会

○夏休みゴルフ8月2日（水）富士CC（御殿場）報告

猛暑の続いた（今も暑いですが）8月の2日、「よくやるは・・・」の声をものともせず、2台の車が東村山を出発。用賀から東名高速に乗り、一路会場の御殿場は富士CCへと突っ走る。予定を30分早めて5時半に出発した車のハンドルを握るのが、学生時代ゴルフ部に在籍した経歴を持ち、稲門会ゴルフにいいよ本日初登場の木谷由美子夫人。同乗者は稲門会ゴルフでは一寸先輩の大野恵子さん、運転は奥さん任せで前夜の寝不足を補う木谷肇さん、とにかくゴルフ場まではあなた任せの大西幸夫さん。以上の4人。

予定通りの6時に出発した車には、他人の運転ではどうしても落ち着かない気分になり、調子が出ないと言う井垣和太さん。助手席に乗ったのが、たまの帰宅と言うのに引っぱり出された井垣二世の研太さん、後部座席には、冬に風邪を引かない妙薬は真夏のゴルフだという持論の佐藤守彦さんと、つい先日車同士のガッチャンコをやって愛車は入院中の津野慶浩さん。

こちらも4人。両車ともに順調に御殿場に到着。

御殿場は標高450メートルの場所だけに、都心と比べれば気温も4～5度は低く、樹間を吹き抜ける風は心地よく、春から乗用カート方式が採用されており足に疲れが来ることもなく快適なゴルフが出来ました。

富士CCの売り物である富士山は、この日は夏雲がかかっており後半に時折頭がちょっと見える程度でしたが、プレー終了後クラブハウスで御殿場高原地ビールを飲みながら歓談をする頃には夕陽を受けて裾の長い稜線がうっすらと浮かび上がって来ました。

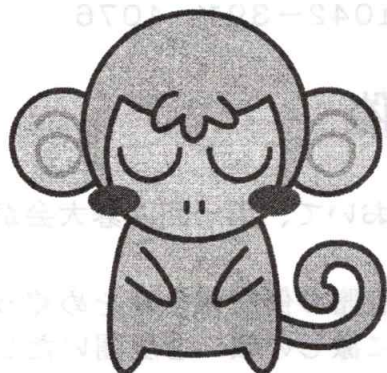
ところで、肝心のゴルフの方はどうだったのかとお尋ねになりたいでしょうね。

春と秋の会長杯コンペは公式戦としてスコア・順位を発表しますが、その他はスコアは二の次三の次。初のおしどりゴルフを満喫した木谷夫妻、最終ホールでバーディーをとり次ぎが待ち遠しい大西さん、昨年のスコアをどこまで縮めるかに気合いの入った大野さん、どのコースでも自分のゴルフで安定している津野さん、ひたすら汗をかくことに専念した佐藤さん、息子がもう少しゴルフに熱中すればと願う井垣さん、各人各様に楽しんだ「夏休みゴルフ」でした。

（井垣 記）



テニス同好会



8月度はお休みさせていただき、涼風の吹き始める9月に再開と言うことで、会場の選定をしておりますが、市民体育大会が始まり運動公園、学校など市の関連コートは全部予定が入っており、他の会場を当たっております。

確定次第、電話等で別途ご連絡しますので、よろしくお願いいたします。

幹事 当 間 昭 治 TEL 391-6023

園芸の会

幹事：三宅 TEL 394-5298
土橋 393-5708



今年3回目の園芸の会を8月20日（日）14時から市民センターで催しました。

出席者 藤澤博恭氏、大西幸夫氏、木谷肇夫妻、小亀輝雄夫妻、山下邦康夫妻、土橋雄次氏、三宅良太の各氏計10名

2月19日の会の折、藤澤博恭氏よりお分け頂きましたさくら草、さぎ草の成育開花状況等について各自苦心談を述べ、藤澤博恭氏（講師）よりご批評アドバイスを頂きました。約2時間余り楽しく過ごすことが出来ました。

次回は11月5日（日）午後2時から市民センター（予定）で催すことになりました。その時出来れば、この8月から9月にかけてそれぞれ各種の種を蒔き、その苗を持ち寄り交換することに致しております。多数ご参加をお待ち致します。

麻雀同好会 （再掲）

本年第三回麻雀大会を下記にご案内いたします。例によって表彰式後はまた懇親会で一杯やりながら楽しいひとときを過ごしましょう。

初参加の方お待ちしております、大歓迎です。

記

日時：9月10日（日）12時30分

場：所：マージャンM

本町4-12アメニテイパレスB1

TEL：397-5228

会費：6千円（競技代、賞品代懇親会費用すべて含）

小野（391-9523）

田口（395-4077）

囲碁・将棋の会

幹事：鈴木 国夫
：江藤 昌明

TEL 042-394-2052
TEL 042-391-4076

第一回 囲碁大会 開催

同好会発足一周年を記念して、8月26日に市民センターにおいて、第一回囲碁大会が盛大に開催されました。



第一回優勝者 野村保夫氏

参加者15名が大西会長寄贈の優勝杯争奪をめぐって、和気あいあいのうちに激しい戦いを展開いたしました。

鈴木幹事苦心の作による手合割により、置き石などのハンディキャップをつけたため、有段者も下級者も毎回一緒にクジを引いて対戦することができました。

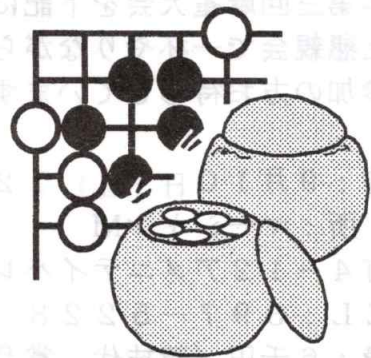
1局50分の制限時間で4局を打ち、優勝は全勝の野村保夫氏、準優勝は高鷲近氏が栄誉を勝ち取りました。

現在、隔月に練習会を開いて居りますが今後、大会を年2回開催することが決まりました。大会成績により次回から稲門会公認の昇級者も出ることでしょう。

次回の練習会は下記のとおりです。奮ってご参加下さい。

記

日時：平成12年10月21日（土） 午後1時～5時
場所：東村山市民センター第六会議室



郷土史の会 (再掲)

今年第3回の郷土史の会を下記の日程で催しますので多数ご出席下さいますようにご案内申し上げます。

記

日時：平成12年9月24日(日) 14時～16時

場所：ふるさと歴史館視聴覚室

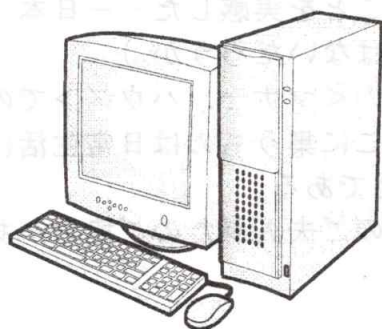
講師：成田 延雄氏(昭28理工)

テーマ：江戸時代の土木技術について

前回5月21日、伊藤友己氏(昭51政経)のご案内で玉川上水を羽村の起点から拝島まで歩き当時の工事の苦心のあとを偲びましたが、それらを含めてお話を頂きます。乞うご期待!!

パソコンなんて怖くない

伊藤 友己(編集委員)



夏だから怪奇特集をやろうというのではない。最近になって私の周辺でやたらにパソコンの話が持ち上がり、どうやら我々の年代以前でも何とかパソコンに乗り遅れまいとする焦りとも何ともつかぬ動きが始まったようだ。

幸い筆者は20数年前の、最初のブームの時からパソコンに取り憑かれ、余り苦勞をせずにパソコンと付き合っている。最近になって子供達がいとも容易くパソコンを習得するのを見ていて、苦勞をして

いる世代の方々に幾つかパソコンとの付き合い方をお教えしたい。

まず第一に、タイプを習って一定の技量を持ったことの有る人以外は、両手でキーボードを打とうと思わないこと。我が家では小学4年生の娘が流行のポストペットというメールソフトを使って友達とメールの交換をしているが、当然彼女はタイプは愚かローマ字打ちさえおぼつかない。けれど充分に用が足りている。何故か。例えば、パソコンの用途として一番多いのは、今私がこの原稿を書いているようにワープロとして使うことであろう。パソコンで仕事しかもタイプの仕事をする人以外、まず人差し指一本で充分に役に立つ。

思考の速度など大体そんなものだから、それ以上の速度が要求されるならその人は充分に売文で食っていけるから、そんな場合だけタイプの教室に行けと薦めたい。要は他者の眼である。指一本で恥ずかしいという羞恥心だけである。まず一定の年齢以上の人はここで躓く。Never mind. 気にするな、要は使えれば良い。今は親指の時代でもある。

第二は目的意識を持つこと、つまり大枚はたいて買ったパソコンを何のために使うのか?ここはしっかりと考えておいた方が良い。ワープロかゲームかインターネットかメールか音楽か……。私がPC-8001というNECのパソコンを最初買った当時の事を思い出してみると、ゲームと簡単な計算ソフトを自分で作るしか使い道は(8ページに続く)



土曜の薄暮、芝生の庭に「心の故里」を見た

奥山 康治（昭34年文）

7月最後の土曜日（29日）午後4時から東村山稲門会の異色イベント＜バーベキュー大会＞が久米川町三丁目の当間昭治家の庭で開かれた。昨年に続く第2回目の会である。

当間家は東村山市内唯一の酒造元である豊島屋酒造の東の隣接地に位置する旧家で、テニスコートができるような広い芝生の庭をもった、都会の喧騒のとどかない別天地である。

ここに当日は「心の故里」を求めて40名もの会員と家族が集まった。最年長は昭和22年政経卒の久世利夫副会長。

今回が初参加の私は、当間昭治氏のご両親からお話をおうかがいする機会を得た。第二次大戦末期、B29爆撃機が所沢飛行場を爆撃した時に投下した爆弾の一つが当間家の庭に落下したこと、生まれたばかりだった昭治氏が屋敷の2本の大黒柱のおかげで無傷だったこと、しかし顔は埃をかぶって真っ白になっていて、死んでいるのではないかと思ったこと、庭の西側にある土蔵は爆風のために傾いたままになっていること、など、戦争時の鮮烈な経験を語られるご両親のお話しの強い感銘を受けた。（戦争時の苛酷な経験は、半世紀が経っても体験者にとっては昨日のここのように思われることを実感した—日本軍により被害を被ったアジア諸国の人々にとっても同じことではないだろうか。）

大都会の喧騒のまったくとどかない、当間家の庭の会は英国の＜マナー・ハウス＞での週末の午後の＜ガーデン・パーティ＞を私に思い出させた。ここに集うものは日常生活につきものの利害を離れた、「心の故里」を求める美しい心の集団である。

このような会が実現したのは、当間家の方々と、そして会員のご夫人がたのご協力があったからである。心から感謝したい。

一色 泰久（昭43文）

7月29日（土）4時～7時ということで昨年と同様に当間さんのご家族皆様のご好意に甘えて、当間家の広いお庭を拝借して納涼バーベキュー会が行われました。

午後4時とは言え真夏の暑さはやや西に傾く程度で、まだジリッと肌に刺さるような強い陽射しのために、一汗も二汗もしぼり出したような状態で会場に到着した方も多かったと思います。

ともあれ、春のお花見以来久々の40名を超す集いでした。

東村山稲門会の発足以前から知己のあった方も発足後の稲門会の各種の集いで知り合い同士となられた方もお互いの健康を確かめながら酒・ビール・焼酎・ウヰスキー・ソフトドリンクを鯨飲し、当間さんの栽培になる取り立て新鮮のキュウリ・トマトをロ一杯にほうばり、女性達の活躍を中心に焼き上がった肉・野菜などのバーベキューで健啖を競い、話に花を咲かせ、時に好敵手の慶応・明治を彼等の校歌をもって称える余裕の一場面もありました。

最後に全員が輪となり肩を組み我々が早稲田の校歌を合唱しお開きとなりました。

東村山を歩く①

小亀 輝雄

東村山停車場

東村山は北多摩地域でも早い時期に鉄道が開通したところです。明治22年生糸や石灰石などの物産の搬出のため、新宿、八王子間に甲武鉄道（現中央線）が開通すると、やがて国分寺と埼玉県川越を結ぶ川越鉄道が甲武鉄道の援助で計画されました。当初、停車場は国分寺の次が小川、小川の次が所沢と東村山は素通りする計画となっていました。ところが建設工事の途中で思いがけない事件にぶつかり、このことが原因になって東村山に仮の停車場が設けられることになったのです。その事件というのは、東村山と所沢の間の柳瀬川にかける鉄橋をめぐって、所沢の久米の住民が設計変更を要求して運動にのりだしたのです。この鉄橋は、当初の設計では大雨などの際に川の流れをせき止め、上流に洪水をひきおこすというのが久米の住民の主張でした。そして政府も住民の訴えを認め、会社に設計変更を命じたため、工事は中止を余儀なくされました。そこで、会社は今の東村山駅よりも250メートルほど所沢寄り（白山神社の近く）の久米川に（仮の停車場を設け、明治27年（1894）に国分寺と久米川間で営業を開始しました。明治28年（1895）鉄橋も完成し、国分寺～川越間が開通するに伴い仮設の駅は廃止されることになりました。しかし、東村山の人々は鉄道の有無は地域の発展に大きく影響すると考え、小島証作、町田六左衛門、立川伊兵衛が村の惣代として川越鉄道に「上申書」を提出し、約250人もの人々の寄付と土地の提供で同年8月6日ようやく東村山停車場の完成にこぎつけました。当時の人々の考えた通り、鉄道は地域の発展に欠かせないものとなり、その後の東村山発展の基礎となりました。こうした当時の人々の努力を後世に残すため、明治30年（1897）に「東村山停車場の碑」が建てられました。歴史学者・重野安繹の書で鉄道敷設、停車場開設の経緯、新田義貞元弘の戦いのことなどが刻まれています。現在東村山西口構内にありますので、機会がありましたら、是非ご覧頂き、先人の努力に思いを馳せてみるのも意義のあることではないかと思います。

その後明治45年武蔵野鉄道株式会社により池袋～飯能間開通、大正4年秋津駅、昭和2年4月高田馬場～川越間が電化し西武村山線として同月16日久米川駅ができました。この久米川の駅名は旧東村山地区で南北に長く最も面積が広がった久米川部落の南端に開設されたからと思われます。翌年3月小型電車の多摩湖線が開通しました。昭和27年3月高田馬場と新宿間が延長され従来の村山線が西武新宿線と改名されました。

参考文献 図説 東村山市史 東村山市

〔市報 東村山〕1984. 1. 20～2. 20

東村山郷土研究会
野口正穂氏の文章

また、本稿をまとめるに当たり、会員の江藤昌明氏にアドバイスを頂きました。

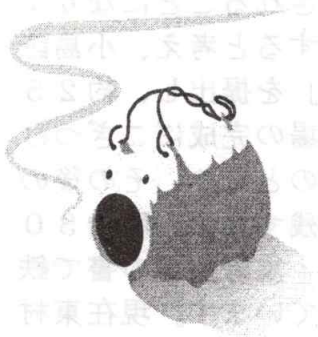
(5ページから)無かった気がする。あれからパソコンは目覚ましく進化し、その気になれば何でも出来るようになった。だが、問題は使い手でそんなに全てに通曉出来るわけがないし、大体パソコンだから人が何十年も掛かって磨いた技術を片手で出来るようになる訳ではない。パソコンという武器を握って自分の技術を育てて行くしかない。その為にはターゲットを絞って、使い方をマスターすることだ。ついでに言えば、多分今パソコンの主流と見なされているインターネットやメールはi-modeに象徴される様な多機能な通信機器に取って換えられる。インターネットやメールの為にパソコンのオールマイティの機能は必要ないし、逆にワープロを操作するのに今のような高機能をパソコンに持たせる必要もないからだ。思えばワープロ専用機は素晴らしかった。

機会があれば、このニュースの作成の中でどの様にパソコンやアプリケーション・ソフトを使っているのか紹介して行きたいが、それは又次の事とする。

編集局だより

編集局：井垣、伊藤、塩見、田口

◎やけに暑い夏が続き、終わりが見えかけようとした頃に、FAXがあちこちから舞い込み、今回は仕方なく単独編集の形をとった。本来編集会議で十分に方向を詰めて置くべきなのに、それが出来ないままにこの形となった。お詫びを申し上げたい。



従来、塩見編集局長の元に原稿が集められ、ほぼ徹夜に近い形で原稿の切り貼りを塩見さんが行っていた。これは大変な労力であり、我々も何とか改善の道を見つけないかと思っていたが、国の通信インフラだってやっと議題に上ってきたばかりだ。ましてや個人のインフラ整備にはまだまだ時間が掛かる。今回も、集められた原稿を編集して、E-mailの添付ファイルとしてコピーセンターに送り込もうとしたが、諸般の事情で果たせなくなった。最後のところは既成のルートに乗せて運び込む方法をとった。内心忸怩たるものが有るが今は仕方がない。

◎編集会議で、最終的な方法を打ち出したいと思っておりますが、当分は同好会だよりの原稿は、従来通り例会前の日曜日を締め切りとしたいと思います。入稿はE-mailでもFAXでも結構です。投稿は出来れば月半ば迄に同じくE-mail、FAXでお送り下さい。FAXの場合、ワープロ原稿をお送り頂ければ、OCRソフトで読み取りますので当方での打ち直しの時間が少なくて済みます。本誌の1ページは12Pの活字で40字×40字を基本設定としていますので、ご協力下さい。分載が必要な場合の判断は当方で行います。写真は歓迎いたします。出来るだけ返却致しますが、出来ない場合も有ることをご了承下さい。デジタル写真のメモリーカードでの入稿は出来ません。E-mailの添付ファイルとしてお送り下さい。ファイルの形式はJPEG乃至はGIFをお願い致します。BMP形式では送信の負担が掛かり過ぎます。付属するフォト・レタッチソフトで変換出来ますので試してみてください。◎誌面割やイラスト等まだまだ出来上がっていませんが、是非ご意見を下さい。ついでに好いクリップのソフトがあればご紹介下さい。

E-mail: tom-i@ma3.justnet.ne.jp

TEL/FAX 398-1352

(文責 伊藤)